

●朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)

金正恩国務委員長が中国訪問

2019年1月8日発『朝鮮中央通信』によれば、金正恩国務委員長が中国訪問のため、同月7日、平壤を出発した。

3月10日に最高人民会議代議員選挙

2019年1月9日発『朝鮮中央通信』によれば、同月8日、最高人民会議常任委員会が最高人民会議第14期代議員選挙を2019年3月10日に行う内容の決定を発表した。

労働赤衛軍創建60周年記念中央報告会

2019年1月14日発『朝鮮中央通信』によれば、同日、労働赤衛軍(労働者、農民、事務員等で構成される民兵。軍事パレードでも行進する)創建60周年記念中央報告会が平壤市の人民文化宮殿で開かれた。席上、崔竜海朝鮮労働党副委員長が記念報告を行った。

朝鮮中央通信の社説「日本の未来は過去清算にある」

2019年1月16日発『朝鮮中央通信』は「日本の未来は過去清算にある」と題する論評を出した。これは安倍首相の年頭の所感に対して、北朝鮮側の立場を示したものである。今後日朝国交正常化交渉が始まった際に、北朝鮮がどのような立場をとるのかを予想する上で重要である。

「わが国家第一主義」に関する社説が労働新聞に掲載

2018年1月21日付『労働新聞』は、「わが国家第一主義を高く掲げて社会主義強国建設を力強く推進しよう」と題する社説を掲載した。社説では「わが国家第一主義」を先代の指導者たちとの連続性の中で捉えつつ、以前よりも国力が増強した新たな時代に対応した作風へと転換することを求めているものとして解説している。

内閣全員会議拡大会議開催

2019年1月21日付『朝鮮新報』によれば、内閣全員会議拡大会議が行われ、「社会主義自立経済の威力をより強化」することが討論された。

工業用6自由度ロボットを開発

2019年1月23日付『朝鮮新報』によれば、国家科学院操縦機械研究所が6つの関節を持つ工業用6自由度ロボットを開発した。

千里馬製鋼連合企業所が鋼材の質向上を実現

2019年1月23日付『朝鮮新報』によれば、千里馬製鋼連合企業所(平壤近郊の電気炉メーカー)で、鋼材の質を向上させるため、電磁気誘導攪拌方式を導入したとのことである。

金正恩国務委員長、米国を訪問して帰国した高位級代表団を接見

2019年1月24日発『朝鮮中央通信』によれば、金正恩国務委員長が同月23日、金英哲朝鮮労働党副院長を団長とする第2回朝米高位級代表団を接見した。

7月8日と12月17日を全国的な追悼の日指定

2019年1月24日発『朝鮮中央通信』によれば、同日、最高人民会議常任委員会が、金日成の逝去日である7月8日と金正日総書記の逝去日である12月17日を国家的な追悼の日とし、当日は半旗を掲げることを規定する政令を発表した。

内閣全員会議拡大会議の開催

2018年1月20日発『朝鮮中央通信』は、内閣全員会議拡大会議が朴奉珠総理をはじめとする内閣のメンバーの参席の下、開催されたと報じた。会議では昨年の朝鮮労働党中央委員会第7期第2回全員会議が提示した「革命的対応戦略」が要求する自立性と主体性を高め、人民生活を改善向上させる上で提起される問題を討議したとのことである。

平城市にキムチ工場竣工

2019年2月5日発『朝鮮中央通信』によれば、平安南道平城市鳳鶴洞に平城キムチ工場が竣工した。

陰イオン発生器が広く導入

2019年2月7日付『朝鮮新報』によれば、金日成総合大学平壤医学大学医学科学技術交流所が開発した空気中に陰イオンを散布する機器が北朝鮮の家庭に普及しはじめているとのことである。

スピルリナを利用した健康食品の開発

2019年2月7日付『朝鮮新報』によれば、北朝鮮でスピルリナ（藍藻綱ユレモ目の単細胞微細藻類）を利用した健康食品の開発競争が盛んに行われており、商品化が進んでいるとのことである。

金正恩国務委員長を迎え、建軍節慶祝宴会が行われる

2019年2月9日発『朝鮮中央通信』によれば、建軍節71周年を迎え、金正恩国務委員長の参加の下、慶祝宴会が行われた。また、これに先立ち、金正恩国務委員長は人民武力省を訪問し、演説を行ったほか、功勳国家合唱団の慶祝公演を鑑賞した。

全国労働赤衛軍指揮成員熱誠者大会開催

2019年2月13日付『朝鮮新報』によれば、同月11日、平壤で全国労働赤衛軍指揮成員熱誠者大会が開かれた。

金正恩国務委員長が第2回米朝首脳会談のため平壤を出発

2019年2月24日発『朝鮮中央通信』によれば、同日、金正恩国務委員長が第2回米朝首脳会談を行うため、平壤を列車で出発した。

第2回米朝首脳会談

各種報道によれば、2019年2月27～28日、第2回米朝首脳会談がベトナムのハノイで行われた。今回は共同声明など合意文書の署名は見送られたが、トランプ大統領は記者会見で、金正恩国務委員長との関係は依然良好との認識を示した。

ERINA 調査研究部主任研究員
三村光弘